

唐津市(九州・沖縄ブロック)

【計画期間 平成28年4月～33年3月】

- ・江戸期 : 唐津藩の城下町として発展
- ・明治～ : 石炭の産地と天然の良港を擁していたため石炭積出で繁栄
- ・昭和～ : 約50の炭鉱閉山並びに遠洋漁業衰退
- ・人口122,859人(平成27年国勢調査) 面積487.54Km²

【前計画の概要】

- 中心市街地の中心部に位置する旧まいづる百貨店・バスセンターにおいて再開発事業を実施し、バスセンターや商業施設等の都市機能を集約した。
 - 未利用地を活用した民間事業者による快適な居住環境整備を進めるとともに、早稲田佐賀中学校・早稲田佐賀高等学校の新設に伴う新たな住宅需要を積極的にまちなかへ誘導を図った。
- (計画期間:平成22年3月～平成28年3月)

【中心市街地の変化】

- 再開発事業により市民や観光客の交流拠点が整備できたことで新たな人の流れが生まれ、中央商店街の歩行者通行量の増加を始めとした、まち全体の活性化に好影響がもたらされた。
- 早稲田佐賀中学校・高等学校の開校以降、生徒数・職員の増加は順調であり、生徒の約6割が入寮しており、相当数がまちなかに居住し、一定の成果が得られた。

【目指す中心市街地像】

Re・Innovation 唐津
まちなか骨格軸の革新と歴史・文化のリノベーション
による、憧れの城下町・唐津

賑わいあふれる魅力ある商業の創出




- 【主要事業】
- ・新天町パティオ整備事業
 - ・呉服町商店街ファサード整備事業
 - ・空き店舗チャレンジ誘致事業
 - ・バスの乗り方教室
 - ・子育て支援拠点事業
- など

■前計画の目標

目標	指標	基準値	目標値	最新値
歩きたくなる「まちなか」	中心市街地の歩行者通行量(平日・休日の合計の平均)	6,831人/日(H21)	7,200人/日(H27)	7,102人/日(H27)
住みたくなる「まちなか」	中心市街地の居住者人口	7,339人(H20)	7,630人(H27)	7,256人※(H27)

※住民登録を行っていない人数401人を加算すると、7,657人となる。

■新計画の目標

目標	指標	基準値(H26)	目標値(H32)
賑わいあふれる魅力ある商業の創出	商店街空き店舗率 	22.77%	16.69%
	来街者満足度 	19.43%	32.53%
訪れたい魅力ある観光の創出	中活エリア内の観光入り込み客数 	314,130人	339,551人

訪れたい魅力ある観光の創出

- 【主要事業】
- ・城内地区・曳山通り景観まちづくり事業
 - ・旧大島邸復原整備事業
 - ・南城内駐車場整備事業
 - ・唐津城天守閣改修等事業
 - ・呉服町商店街ファサード整備事業【再掲】
- など

唐津市中心市街地活性化基本計画の事業概要

賑わいあふれる魅力ある商業の創出

①新天町パティオ整備事業

JR 唐津駅と大手口センタービルの2 核を結ぶ呉服町商店街内に位置する既存区域をパティオとして整備することにより、商業施設として新たなテナントを誘致するとともに、世代とのつながり、地域とのつながり、交流を生み出す滞在型空間をつくり出す。



②呉服町商店街ファサード整備事業

呉服町商店街のアーケード撤去と合わせ、商店街づくりのガイドラインを作成し、各個店がこのガイドラインに沿ったファサード改修を行う。



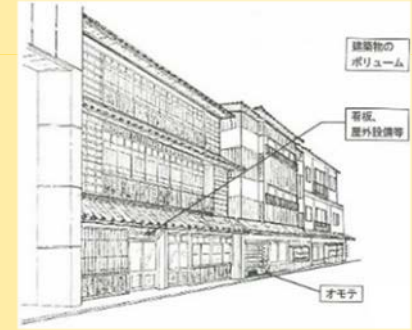
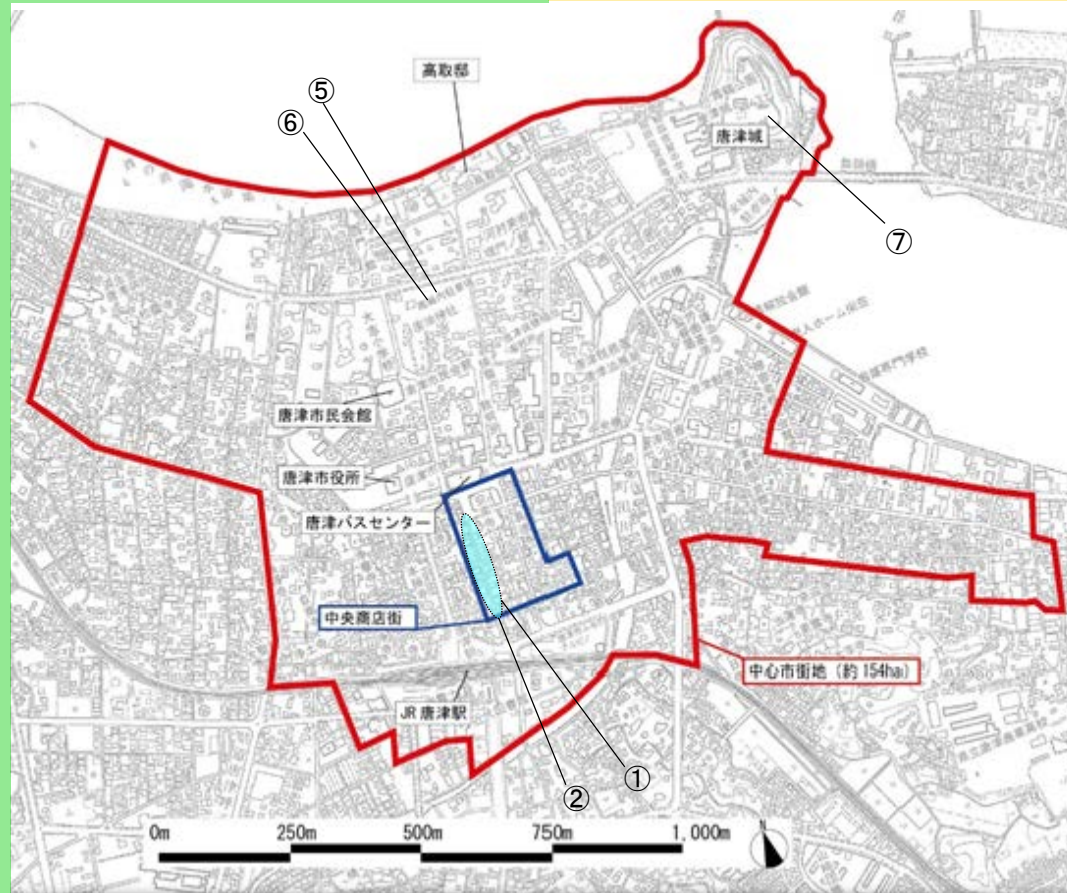
③空き店舗チャレンジ誘致事業

出店にチャレンジする上で少しでもリスクを軽減するため、店舗改装について支援し、その後の経営についても、商工会議所との連携によりしっかりとサポートしていく。

訪れたい魅力ある観光の創出

④城内地区・曳山通り景観まちづくり事業

前計画において策定した景観形成基準・ガイドラインをもとに、平成28年度に景観計画における重点地区のための景観条例の改正を行い、町並みの保全・誘導を行う。



⑤旧大島邸復原整備事業

城内地区を1つの美術館・博物館に見立て、魅力アップや新たな文化的価値を創造する“まちはミュージアム”の交流の結節点として活用するため、唐津の近代化に大きな功績を遺した大島小太郎の自邸である旧大島邸を復原整備する。



⑥南城内駐車場整備事業

旧大島邸復原整備事業と併せて、邸宅に付随する駐車場と南城内駐車場を一体的に整備する。

⑦唐津城天守閣改修等事業

天守閣の耐震補強及び空調設備の新設や資料の保存、活用を図るための展示ケース等を改修する。